

11月10日、福岡大同青果株式会社と株式会社マルゴの担当者3名が今年産のふじや王林の品質を確認する為に来協し、生育や果実品質について説明を行った。

米澤松太農業振興課主任が色付きや品質、生育を説明した。

担当者らは「とても美味しそうで、消費者の購入意欲を促すような色付きですね。」と感想を述べ、米澤主任も「今年も品質の良いりんごに仕上がりましたので、より多くの人に食べてほしい。」と話していた。



肥大の良さに驚く(株)マルゴ社員

東京から移住してきて2年目となる、相馬地区地域協力隊の石田有希子さんが11月24日、弘前市役所にて都立大江戸高校定時制の生徒4名にりんご栽培の一年について授業を行った。

石田さんの友人の奈木いずみさんは都立大江戸高校で地理の教師をしており、生徒らには東京の価値観だけで留まって欲しくないという思いから、是非石田さんから弘前に移住したことで得た経験を話してほしいということで授業が行われた。

石田さんは、体験した剪定作業から授粉作業、摘果作業、収穫作業などを説明した。

石田さんはこれらの作業を体験した中で、りんごは人作りであり、地域作りであることに気が付いた。りんご作業にはそれぞれ師匠という人が居て、師匠から技術などが受け継がれ人が作られていき、りんごに特化した産地としてその人たちが地域を盛り上げていく事に気が付き、生徒らに授業の



生徒らが驚いたコンテナの量

一番のポイントとして伝えた。
また、当管内の収穫量や取り扱い品種について写真と一緒に話をしていたところ、当JJAのコンテナ置き場の画像を見て、「コンテナが山積になってコスト」のようだ。」等と都会的な回答がでるなど、終始楽しい雰囲気にも包まれていた。
最後に生徒らは、「りんごを収穫するまでにこんなにも大変な作業があるのかという事を知り、これからりんごを口にするときは生産者が苦労して育てたと言いつ事を思い出します。」と話していた。

石田さんは「またこのような機会があれば実際の園地でオンライン授業を行い、生産者の声を生徒らに生の声を聞かせたい。」と語った。



スピーディーな津軽弁も披露した



画面を通してりんごの部位の説明をする石田さん

相馬のりんごが
大好きです

03

11月14日～12月6日まで、湯口支所グリーンプラザ前にて毎年恒例のJA相馬村りんご祭が開催された。

相馬地区産のりんごを求めて多くの人が訪れて賑わいを見せていた。

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、入場制限や検温、飛沫感染防止対策を講じながらの開催となった。

生産者がりんごを売場に並べていると、消費者の方から「どのりんごが美味しいですか。美味しいりんごを選ぶにはどのような見方をしたらいいですか。」等といった話をする場面も見られていた。

生産者は「消費者と会話して、本当に相馬のりんごが大好きで買っているんだと実感した。これからも美味しいりんごを作って消費者の方に喜んでもらいたい。」と話していた。



秋田からのお客様も満足して購入



入場の際には検温を実施

手軽に
贈答りんごを配送

04

青年部初の取組として、クロネコヤマトの集荷受付をライスセンターにて行った。

この事業は青年部役員の溝江翼さんが、毎年贈答用のりんごを送るときに運賃を安くできないか模索して思いついたアイデアである。地域の方々も同じ悩みを抱えているのではないかと思ひ部員の有志を集め、夏頃からクロネコヤマト担当者の方と受付の仕方や、集荷時間、クレーム対応などについて話し合いを重ね、実現したものの。

溝江さんは、「予想以上に多くのお客様から反響があり、とてもやりがいを感じている。来年も地域の皆様に喜んでもらえるように取り組んでいきたい。」と意気込んでいた。

初年度の今年は受付件数が1000件を超え大盛況に終えた。



協力して荷下ろしなどの対応をする部員ら



地域の方との関りを大切に